平成２２年度帰国教員歓迎会

平成２２年６月５日（土）に上記の会が，アークホテルで開かれました。当日は武元会長，赤松元会長はじめ約３０名の会員が出席しました。総会の後３人の帰国教員から貴重な現地での体験が報告されて有意義な会となりました。（コロンボ日本人学校から帰国された苅田校長先生，ジョホール日本人学校から帰国された三宅貴恵先生，広州日本人学校から帰国された藤井小百合先生は，所用のためご欠席でした。）

山本正会長は，昨年度中国大会をかねた本会の研究大会が，武泰稔教育長の下，矢掛町をあげて開かれたことを振り返り，矢掛町の先生方や本会の先生方に感謝の言葉がありました。そして，今回帰国された先生方も含めて，子どもたちの国際理解に力を注ぎ，ますます発展してほしいと話されました。

続いて，総会では，新会長に都築勉校長先生が選ばれました。先生は，帰国後の編集部で，当時はメールなどなく国際郵便で海外からの情報をもらっていたことや，研究部で，総社に泊まりがけで研究課題を検討したことなどのお話をいただきました。そして，帰国教員に忙しい日本の現場の中に埋もれず，本会が用意する場で，貴重な経験を生かし，活躍してほしいと話されました。

次に，菅野和良副会長から，大会報告書がもう１７回を数えることや，第１回は今は移転している朝日高校の南にあった岡山県教育センターで発表したことなどのお話をうかがいました。そして，続けてがんばっていくことの大切さや，派遣されたことへの恩返しと思って，帰国された先生方の積極的な本会への参加を呼びかけられました。

武泰稔教育長は，全国教育長組織の副会長として，副大臣に面会する機会もあり，海外派遣について要望したことや，本会の参与として，これからも都合がつく限り出席していきたいというお話をうかがいました。そして，帰国教員には，本会の維持発展のため，新しい力として中心になって活躍してほしいと述べられました。

乾杯のあいさつは，赤松康弘元会長でした。福武教育振興財団から，現在は岡山大学保育所園長として勤務されています。保育園の課題は，しゃべりたいばかりで聞くことができにくい園児に，しっかり聞くことを教えることだそうです。また，現代の若者は外国に行きたがらない傾向があり，原因はインターネットやテレビなどで知ったつもりになってしまうことではないかと分析されました。自分で生で体験することが大切なことに気付いてほしいと話されました。

続いて，帰国者からの報告です。

山本義人先生は，教頭としてリマ日本人学校に派遣されました。以前派遣されたバハレーン日本人学校に続き，危険地域専門のように感じたそうです。１年目は，大地震やテロが起こり，子どもたちの安否確認や報告書で危機管理の大切さを学んだそうです。２年目以降は，移住１１０周年行事やＡＰＥＣアジア太平洋経済協力会議が開催され麻生首相や皇族が，学校を訪問されたそうです。ペルーは，日本から丸１日かかる遠い国です。出て行く時には「生きて帰って来い。」と言われ，帰国したら「よく無事で帰って来た。」と迎えられたそうです。「遊びに行くよ。」と言っていた人たちは，誰一人として来なかったとか。現在は，ＰＴＡから講演の依頼を受けていてぜひ，日本の教育整備がすばらしいことをお話したいということでした。

今田雅影先生は，クアラルンプール日本人学校に派遣されました。岡山から続いて派遣者が出るようにがんばって来いと言われ，次の人が来られてほっとしています。特別支援学級を２年間受け持ったり，子どもたちと国際交流で，うどんを何度も打ちました。現在うどん店が初めて１軒オープンしていて，食べ比べましたが，私の作った麺の方がおいしかったですと話されました。

坂本竜也先生は，上海日本人学校に派遣されました。公害で騒がれた頃の日本はこんなだったかというような灰色の空です。中華料理は，パクチーやはっかくなどの匂いがきつく食べづらかったです。治安は良くて，岡山と直行便があるのは，有り難かったですと話されました。